

研究主題

「気力・体力にあふれた子どもの育成」

～ 「わかった できた もっとやってみたい」と感じる体育学習をめざして ～

1 主題について

- (1) 主体的に、課題解決をしたり創意工夫したり、ポイントをつかめたりする学びのある場づくり（場の設定）について
- (2) 児童が運動課題を解決するための体の動かし方をつかむことができる指導について
- (3) 互いの違いやよさを認めたり相手を思いやったりする、伝え合い深め合う豊かなかかわりについて
- (4) 児童の学習への取り組み方の改善、教師の学習指導の改善につながる学習評価について

2 研究の視点について

- (1) 形成的授業評価やデータを活かした授業改善
基礎基本的な技能を確実に習得する学習と授業の自己評価や子どもたちのふり返り（情意面の変容や感想など）を次の授業改善に生かす。
 - (2) 効果的な指導
場や教具の工夫に努め、ICTの活用やゲーム的要素を取り入れるなど、子どもたちが意欲をもち、より自主的に学習に親しむことができるような指導に努める。
 - (3) 児童が運動課題に挑戦し、運動を楽しみながら自分を高めて行くことができよう、運動課題の解決についての指導法を研究し、運動の苦手な児童へ配慮に生かす。
 - (4) 伝え合い深め合う活動の充実
振り返りカードや学習カード等の活用や活動場面でのかかわりを通して、ペア学習やグループ学習による言語活動が充実する場を意図的に設定していく。
- ☆ 身につけさせたい力や単元のゴールイメージを意識し、子ども同士のかかわりや指導者の支援など、授業改善に取り組んでいく。

3 本年度の努力事項

- (1) 研究の視点にせまる授業づくりに努め、授業研究会を行って研究を深める。
- (2) 子どもたちの体力を向上させるための運動や取り組みの充実を図る。
- (3) 各種研究会への参加を積極的に行い、研修を深める。

4 本年度の主な活動内容

- (1) 5月 体育部会総会 ○平成30年度庶務・会計報告 ○令和1年度役員選出
○県小体研理事会の報告 ○スキー教室日程調整
- (2) 6月 小教研体育部会 ○水泳指導者講習会（市民温水プール）
- (3) 7月 小教研市内統一研修日 ○指導者講習会【器械運動系】
- (4) 8月 夏季一泊研修会参加（水明荘）
- (5) 8月 小教研体育部会
- (6) 11月 市小教研体育部会 ○授業研究会事前研 ○授業研究会と研究協議
○第4学年 体づくり運動 授業者 洋谷 快 教諭（外江小学校）
単元名「めざせ！動きづくりの達人」
指導助言 境港市立図書館館長（元 渡小学校校長）嘉賀 収司 氏
- (7) 2月 令和1年度「新体力テストのまとめ」冊子刊行
- (8) 2月 体育部総会 ○スキー教室の反省、スキー用具の点検（修理・整備）
○本年度事業・研究推進の反省やまとめ、来年度の研究推進について

実践事例①【「わたしたちの体育」を活用した実践】

第4学年「体づくり運動」の実践を通して

境港市立外江小学校 洋谷 快

1 はじめに

(1) 運動の持つ特性

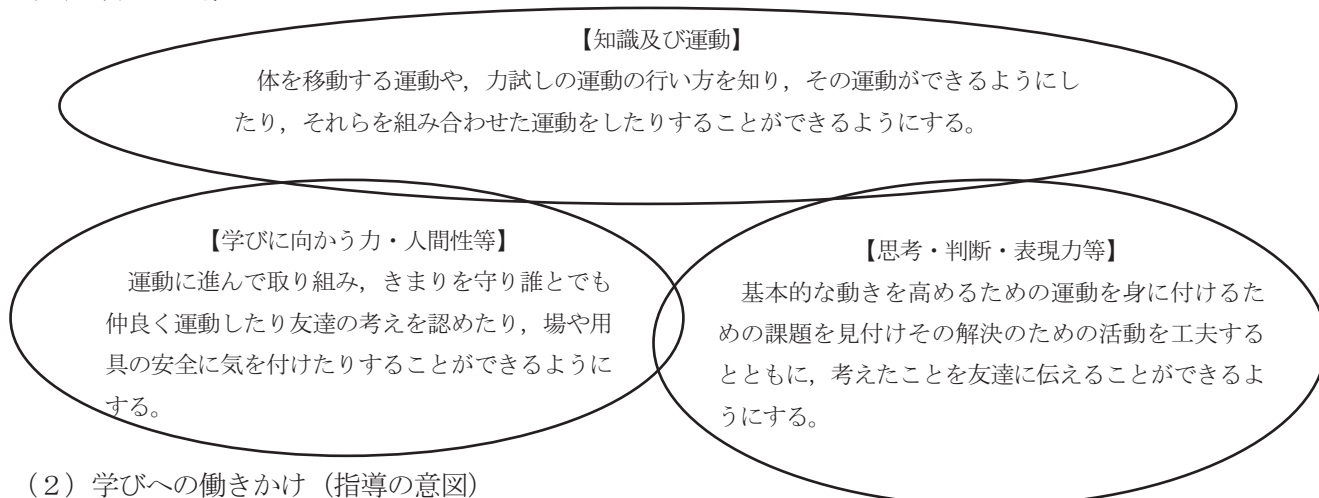
体づくり運動は、「体ほぐしの運動」及び「多様な動きをつくる運動」で構成され、体を動かす楽しさや心地よさを味わうことができる運動である。また、多様な動きをつくる運動の行い方を知り、動きを身に付け、様々な基本的な体の動きの幅を広げ、動きの質を高めることができる運動である。さらに、運動を楽しく行うために、友達の動きを見たり、話し合ったりしながら自己の課題を見付け、その解決のための活動を工夫し、それを友達に伝える力や態度を身に付けることができる運動である。

(2) 児童の実態

事前の児童アンケートより、本学年の児童は体を動かすことが好きな児童が多い(約9割)。好きな理由としては、「体を動かすと楽しい」「体を動かすと気持ちがいい」等であった。よくする運動や遊びは、「おにごっこ」「ドッジボール」「サッカー」などであった。これは、決まった相手と決まった動きのある運動や遊びをしている児童が多く、動きに変化を加えることはあまり経験していないととれる。また、体育学習中に運動がうまくできないときは、多くの児童が課題解決や友達と学び合うより、ただ繰り返すことでできることを目指している。他の単元の小型ハードルや走り高跳びの学習では、活動を通して運動のコツを見付ける児童が増えてきた。ただ、個人での学びが多かった。

2. 実践について

(1) 単元の目標



(2) 学びへの働きかけ(指導の意図)

- ・本校の児童は、近年の体力テストの結果、握力の数値が県の平均値や全国の平均値より低い。力を入れたり抜いたりするなど、運動をするときの力の使い方に加え、力を入れる運動の機会を増やすため、力試しの運動を取り上げる。
- ・児童がよく行う運動や遊びの範囲は狭い。運動のレパートリーを増やすことで、運動をより身近に感じられるようにする。また、運動の工夫や組み合わせに取り組むことで、運動は容易にできることも実感させるようにする。
- ・体ほぐしの運動を毎時間の最初にグループで行い、心をリラックスさせ、友達と一緒に多様な動きをつくる運動に取り組みやすい雰囲気をつくるようにする。
- ・教師が提示した基本的な動きから発展させられるよう、友達に動きのコツを伝えたりよい動きを見付けたりする活動を行う。
- ・身に付けた動きから、「距離」「回数」「人数」「コース」などの条件を変えて動きの工夫をする時間

を設ける。

- ・課題を解決する活動の中で、伝える必然性をもたせるために、基本の運動に工夫を加えさせる。また、グループごとに考えた動きをペアグループに発表する活動を単元後半に行う。動きを組み合わせる運動は、友達の動きを紹介してみんなでやってみる時間をとる。
- ・動きを組み合わせる運動を行う時間には、用具の場所や運動を行う場所などを提示し、安全に活動できるようにする。
- ・体育館壁面やホワイトボードに、工夫した動きを写真や絵で掲示する。
- ・情意面の変容や学習の振り返りを共有しやすくするために、全体での振り返りの時間を設ける。ネームプレートをホワイトボードに貼らせ、情意面の様子や立場を明確にし、その理由を全体に伝えるようにする。

(3) 単元の流れ及び評価の計画

	1	2	3	4	5 (本時)	6
主な学習活動	●オリエンテーション ・学習の進め方 ・準備片付けの指導 ●体ほぐしの運動	・体ほぐしの運動 ・学習のねらいや約束				
		活動① ○いろいろな運動を行いながら、自分の体力に気付き、運動の質を高めることができる。 <u>☆基本的な動きに取り組む</u> ・体を移動する運動 ・力試しの運動 <u>☆条件を変えてやってみる</u> ➡ 活動② ◎より運動の質を高めるために、動きを工夫することができる。(活かす・挑戦する) <u>☆工夫した動きをグループで考えて動く</u> <u>☆考えた動きを発表し、みんなでやってみる。</u>				
		学習の振り返り				
評価の計画	知	① ②	① ②	②	②	②
	思		②	①	①	
	主	①	③	③	②	③ ④

具体的な評価規準	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	①運動の行い方や工夫した動き方を理解している。 ②体を移動する運動や力試しの運動やそれらを組み合わせた運動ができる。	①自分の課題に合った場を選んだり、工夫した動きを考えて友達に伝えたりしている。	①運動に進んで取り組み、きまりを守って運動しようとしている。 ②誰とでも仲良く運動したり、友達の考えを認めたりしようとしている。 ③場や用具の安全に気を付けて運動しようとしている。

3. 指導の実際

導入では、「体ほぐしの運動」を行い、心と体の両面で運動の準備を行うようにした。単元の前半は、教師の例示した動きを一斉に行い、いろいろな動きに取り組む楽しさを味わいながら、基本的な動きが身に付くようにした。また、経験した運動を姿勢・人数・方向などの条件を変えることで、楽しさを味わえるようにした。教師から工夫した動きをいくつか提示し、工夫の視点を与えることで、子ども自身でいろいろな工夫を見付けていくことができた。

単元の後半では、これまで運動したことを基に、グループごとに工夫を加え、互いにやってみるという活動を仕組んだ。自分たちで運動のしかたを考えたり、できるようになるコツを伝え合ったりすることで、よい動きが結びつき、さらに運動の楽しさを味わうことができた。また、ペアグループにつくった動きを伝えるため、動き方を言語化することにもつながった。

境港市では、児童の情意面の変容や感想などを次の授業に活かすことを大切にしてきた。本単元では、『わたしたちの体育』の「学習のあしあと」を使うことはもちろん、個々の情意面の変容や理由を毎時間見取るために、全体での振り返りの時間を確保した。「わかった！できた！もっとやってみたい！」と「困った…。うまくできなかった…。」の二つのどちらかを児童に選ばせ、ネームプレートを貼らせ視覚化した。そこで選んだ理由を全体で共有し、次の授業で取り組んだり改善したりしていくことを全体で確認することができた。



4. 成果と課題

【成果】

- 児童の体力づくりや運動の習慣の中から課題を決め、身に付けさせたい力を明確にした上での単元内容を計画したので、学習の流れはクリアになった。
- 全体での振り返りの時間を設けたことで、児童の思っていることや困っていることがより明確になった。また、次の学習に向けて、ねらいを全体で共有することができた。
- 普段、児童がしない動きを提示することで、いろいろな動きに触れることができた。
- 動きを組み合わせる運動を単元のゴールにすることで、見通しのある学習の流れになった。また、動きづくりをいくつか経験した後だったので、動きづくりを容易に感じることもできた。

【課題】

- グループの数が多く、児童に対する見取りが難しかった。例えば、してほしい動きを10個程度のカードにして、組み合わせを児童に選ばせるなど、よりスマートな見取りの方法が必要だった。
- アドバイスをし合う児童の姿がもう少し見えるように、ホワイトボードを使って話すなど、ツールが必要だった。
- 『わたしたちの体育』を使い、低学年からどんどん遊びの中での多様な動きを経験させていくよう、校内での計画を見直し、改善していく。